

CONTENTS



*Don't be afraid of making mistakes.
Let's try communicating in English.*

Report

これからの地球社会を生きる子どもたちのために

KUMON

English Immersion Camp 事務局

English Immersion Camp は、グローバル化が進む中、「地球社会に貢献できる人材の育成に貢献したい」「子どもたちには世界の人たちとコミュニケーションできる十分な英語力を身につけてもらいたい」という共通の夢・志を持つ人たちによって 2001 年夏にスタートしました。

2 回目となる今年、全国 34 の都道府県から集まった 100 名の小学生たちが 26 カ国 47 名のキャンプ・リーダーたちと 2 週間、英語での生活に挑戦しました。

そして、今年も素晴らしい成果を収めることができました。その成果とは、子どもたちが 2 週間で見せた変化と成長、そしてこのキャンプに関わった人々が学び、考え、行動したことのすべてです。

この成果をもたらした要因は、①「子どもたちが日頃の学習で身につけていた英語力と自信」であり、②「子どもたち一人ひとりの成長を真剣に願い、日々の変化・成長に気づき、認め、ほめ、元気づけた『人』の存在」に他なりませんでした。

日本では日常的に英語を使う環境にはありません。しかし、日頃コツコツと英語を学習している子どもたちは、世界の人たちと心を通わせ、積極的なコミュニケーションを楽しむ事ができるのです。この 100 人の子どもたちがはっきりと教えてくれました。そしてその姿は、「こんな子どもたちでいっぱいになったら、きっと平和な世界を築くことができる」と感じさせてくれました。

「なぜ英語を勉強するのか?」「生きる力としての英語とは何か?」「そして子どもたちの夢や目標をさらに大きく膨らませるために、大人はどう接するべきか?」みなさんのコミュニケーションのきっかけになればと願います。



キャンプの様子を収録した VIDEO があります。
報告書とあわせて、ぜひご覧下さい。

CONTENTS

CONTENTS.....	1
はじめに.....	3
1.概要.....	4
ENGLISH IMMERSION CAMP とは.....	4
開催主旨・目的.....	4
成果の概略.....	4
実施概要.....	5
2.経過.....	6
ENGLISH IMMERSION CAMP タスクチーム.....	6
CONCORDIA LANGUAGE VILLAGE の視察.....	6
キャンプ・リーダーの募集～研修・・・人こそ全て.....	6
参加者の募集.....	9
3.内容.....	11
スローガン・基本指導行動.....	11
全体プログラム.....	11
プログラムの流れ（コンセプト）.....	12
一日の流れ（公文国際学園滞在時）.....	13
グループ制.....	14
英語を使いやすくするためのしかけ・パスポート.....	14
英語での日記.....	15
ENGLISH IMMERSION CAMP PHOTO NEWS(E-MAIL)の配信・ITの活用.....	15
キャンプ・リーダー&スタッフ ミーティング.....	16
4.14 日間の子どもの変化・成長.....	17
5.アンケートの結果から.....	25
6.コメント集.....	27
子どもたちの感想.....	27
保護者の感想.....	31
キャンプ・リーダー、スタッフの感想.....	33
7.昨年との変更点/今後の課題.....	35
主な変更点.....	35
今後の課題.....	36
8.考察.....	37
成功要因について.....	37
昨年との比較.....	38
おわりに.....	39

参考資料.....	40
参加者の内訳.....	40
キャンプ・リーダーの内訳.....	40
アンケートの集計結果.....	41
メディアによる取材・報道.....	42
英語基本指導マニュアル（日本語版）.....	44

はじめに

～今、皆が、地球規模で考えなければいけない時～

かつて、とてつもなく大きいと思われていた地球も、交通手段やIT、科学技術等の進歩によってどんどん小さなものになってきました。著しく国際化が進み、我々の日常生活も大きく様変わりしています。今やインターネットを使えば瞬時にして世界中どこにいる人とでも通信できますし、個人の意見を自由に世界に発信することも可能です。しかし、情報や生活の中で感じる「世界」が急速に近くなっているほど、人類の心の距離が近づいているとは言えないのではないのでしょうか。まだまだ、人口、食料、環境など地球規模の問題も山積みです。今こそ、世界中の人々が手と心をつなぎ、共に考えなければならない時なのです。

～English Immersion Campのはじまり～

明るい未来を創るには、「自ら考え、世界の人々と積極的にコミュニケーションし、行動できる『人』が育つこと」教育こそが最重要課題です。中でも「日本人が世界の共通言語である英語を使えるようになること」は緊急の課題ではないでしょうか。今や英語を公用語とする国の数は60に達し、公用語でなくとも実際に英語を使用している人の数を加えると、世界の4分の1から3分の1の人々が日常的に英語を使っているといわれています。さらにインターネット上の情報の8割以上が英語です。この小さくなった地球で全ての人々が手を取り合いながら、平和に生きていくために英語ほど大切なコミュニケーションの手段はありません。

2001年、「国際社会、人、教育、日本」のことを日々真剣に考え提言を行っておられる朝日新聞コラムニストの船橋洋一氏が、KUMONとの話し合いの中で、「このままでは日本の教育が、教育全体がダメになる！一緒にやりましょう！」との呼びかけをされました。KUMONは「私たちの夢である“世界平和”にここからも大きく貢献できる！」とがっちり握手を交わしました。その後、大分県知事の平松守彦氏、立命館アジア太平洋大学（APU）学長の坂本和一氏、職員の方々や学生、上智大学教授の吉田研作氏と学生、国際ジャーナリストの木下玲子氏へとその輪が広がり、『世界と直接触れ合う。世界共通コミュニケーション・ツール（英語）が何のために必要かをその中で体感・実感する English Immersion Camp』がスタートしました。

～子どもたちの夢・生きる力を支える本気の大人～

2001年、30名の小学生と17カ国22名のキャンプ・リーダー（CL）で始まった English Immersion Camp。2回目の開催となる今年、さらにその人の輪は広がり、参加者は100名、CLは26カ国47名となりました。「お互いに努力をすれば、分かり合える。英語というたった一つの言葉で世界の人々と心を通わせることができる」ということを子どもたちは肌で感じ、夢を大きく膨らませることができました。それを支えたのは子どもたち一人ひとりに真剣に向き合い、本気で接したCL、スタッフの存在です。現在の「混沌とする世界」を救うのは“人”です。

そして、「なぜ英語を勉強するの？」の答えは、子どもたちが「なぜ英語を使いたくなったか」という気持ちの中に見つけることができるでしょう。一人ひとりの子どもたちの英語が話せた！通じた！の喜びと感動は、子どもたちの将来にどのようにつながるでしょう。是非この冊子（ビデオ）全編をご覧ください。みなさんの「コミュニケーションの始まり」となれば幸いです。

1.概要

English Immersion Camp とは

Immersion とは「どっぷり浸す」という意味で、朝起きてから夜寝るまで、世界の共通語である英語での生活に挑戦します。英語「を」教えるキャンプではなく、これまでに身につけてきた英語をいろいろなアクティビティーや、実際の生活の中で使いながら、いろいろな国の人々とのコミュニケーションに挑戦する、英語「で」のキャンプである。

開催主旨・目的

English Immersion Camp は、グローバル化が進む中、「地球社会に貢献できる人材の育成を通じて世界平和に貢献したい」「子どもたちには世界の人たちとコミュニケーションできる十分な英語力を身につけてもらいたい」という共通の夢・志を持つ人たちによって共同で企画され、2001年に第1回目がスタートし、今年が第2回目の開催である。

キャンプの目的・成果イメージ

- 子どもたちが、いろいろな文化をもつ人たちとの交流を通じてそれぞれの文化、考え方を知り、世界の中の自分を感じる
- 子どもたちが、英語を使ったコミュニケーションの成功体験を持つ
- 子どもたちが、世界への広い視野を持ち、自信・自己肯定感・意欲・やる気を持つ

さらに、上記の成果を多くの方に伝えることによって、

- ◆ 「日本人は母国語以外できない」という先入観を払拭し、日本の子どもたち、そして大人たちにも、リテラシーとしての英語力を身につけることは可能であるという自信や勇気を与えること
- ◆ 日本の英語教育を変えていくきっかけを作ること を目指した。

成果の概略

上記の「目的・成果」については十分に達成されたと考える。成功要因は以下の2点

1. 参加者が日頃の学習によってしっかりとした英語力と自信を身につけており、「英語でコミュニケーションできるようになりたい」という強い意欲を持っていたこと
2. このキャンプの目的を共有し、一人ひとりの子どもの変化や成長を徹底的に認めて、ほめて、元気づけたキャンプ・リーダーやスタッフたちの存在

